

名古屋市感染症発生動向調査情報

2019年第36週(9月2日～9月8日)

名古屋市感染症情報センター(名古屋市衛生研究所疫学情報部) 2019年(令和元年)9月11日作成

<http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/15-7-3-3-0-0-0-0-0-0.html>

◆本市の状況

〔トピックス：伝染性紅斑〕

- 伝染性紅斑の患者報告数が例年よりも多くなっており、本市における第36週(9月2日～9月8日)の定点当たり患者報告数は0.76人でした。西区では警報の基準値を上回っています。
- 伝染性紅斑はヒトパルボウイルスB19により引き起こされる感染症です。患者の中心は幼児、学童の小児で、典型的な症状では両頬に紅斑が現れリンゴのように赤くなることから「リンゴ病」とも呼ばれています。
- ほとんどは軽症で自然に治りますが、妊婦が感染すると、まれに胎児の異常(胎児水腫)や流産を起こすことがあります。
- 感染経路は飛沫感染や接触感染です。伝染性紅斑のワクチンはなく、治療は対症療法となるため、予防には手洗いや咳エチケットを心がけてください。

〔RSウイルス感染症〕

- RSウイルス感染症の患者報告数が増加しており、本市における第36週(9月2日～9月8日)の定点当たり患者報告数は1.30人でした。
- RSウイルス感染症はRSウイルスにより引き起こされる感染症で、感染後、4～6日間の潜伏期間を経て発症し、発熱、鼻汁、咳等の症状が数日続きます。
- 乳期、特に乳児期早期(生後数週間～数カ月間)にRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがありますので注意が必要です。成人では通常は感冒様症状のみで、症状が重くなることは少ないです。
- 感染経路は飛沫感染や接触感染です。予防は、咳などの呼吸器症状がある場合はマスクを着用して乳幼児に接し、また、おもちゃや手すり等は、こまめにアルコール等で消毒し、流水と石けんによる手洗いを行い、感染を防ぎましょう。

〔定点把握感染症の発生動向〕

- 伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は、前週の0.5人から0.8人に増加しました。過去3年の同一週の平均との比較では17.7倍多い報告数になりました。
- RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は、前週の0.9人から1.3人に増加しました。

- 突発性発しんの定点当たり患者報告数は、前週の0.1人から0.2人に増加しました。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は、前週の0.4人から0.6人に増加しました。
- 手足口病の定点当たり患者報告数は、前週の0.7人から0.9人に増加しました。

〔1類～5類全数把握感染症の届出〕

診断週	感染症の分類	疾患	発生数	発生の概要
2019年 第36週	2類	結核	10	<ul style="list-style-type: none"> • 男性、53歳、肺結核 • 男性、82歳、肺結核 • 男性、79歳、肺結核 • 男性、47歳、肺結核及び結核性胸膜炎 • 女性、80歳、肺結核及び結核性胸膜炎 • 男性、71歳、肺結核及び結核性胸膜炎 • 男性、80歳、肺結核及び結核性胸膜炎 • 男性、72歳、疑似症患者 • 男性、46歳、無症状病原体保有者 • 女性、56歳、無症状病原体保有者
2019年 第36週	3類	腸管出血性大腸菌 感染症	4	<ul style="list-style-type: none"> • 女性、12歳、感染地域：愛知県、血清型・毒性型：O145 VT2 • 女性、48歳、感染地域：愛知県、血清型・毒性型：O145 VT2 • 女性、7歳、感染地域：国内（都道府県不明）、血清型・毒性型：O145 VT2 • 女性、29歳、感染地域：愛知県、血清型・毒性型：O145 VT2
2019年 第36週	4類	チクングニア熱	1	<ul style="list-style-type: none"> • 男性、12歳、感染地域：フィリピン
2019年 第36週	4類	デング熱	2	<ul style="list-style-type: none"> • 男性、71歳、感染地域：フィリピン • 女性、16歳、感染地域：タイ
2019年 第36週	4類	レジオネラ症	2	<ul style="list-style-type: none"> • 男性、63歳、肺炎型、感染地域：国内（都道府県不明） • 男性、62歳、肺炎型、感染地域：名古屋市

2019年 第36週	5類	劇症型溶血性レン サ球菌感染症	2	<ul style="list-style-type: none"> • 男性、71歳 • 女性、33歳
2019年 第36週	5類	侵襲性髄膜炎菌感 染症	1	<ul style="list-style-type: none"> • 女性、83歳、菌検出検体：血液、感染地 域：不明
2019年 第36週	5類	梅毒	7	<ul style="list-style-type: none"> • 男性、54歳、早期顕症梅毒（1期） • 男性、51歳、早期顕症梅毒（1期） • 女性、24歳、早期顕症梅毒（2期） • 男性、41歳、無症状病原体保有者 • 女性、31歳、無症状病原体保有者 • 女性、24歳、無症状病原体保有者 • 女性、26歳、無症状病原体保有者
2019年 第36週	5類	百日咳	1	<ul style="list-style-type: none"> • 女性、5歳、検査方法：抗体の検出、感染 地域：名古屋市

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

（報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

報告日が遅れたため先週号までに掲載されなかった1類から5類全数報告感染症。

診断週	感染症 の分類	疾患	発生数	発生の概要
2019年 第35週	2類	結核	1	<ul style="list-style-type: none"> • 男性、70歳、肺結核
2019年 第35週	3類	腸管出血性大腸菌 感染症	1	<ul style="list-style-type: none"> • 男性、54歳、感染地域：不明、血清型・ 毒性型：O157 VT2
2019年 第35週	5類	後天性免疫不全症 候群	1	<ul style="list-style-type: none"> • 男性、41歳、AIDS、感染経路：性的接触 （同性間）、感染地域：国内
2019年 第35週	5類	侵襲性髄膜炎菌感 染症	1	<ul style="list-style-type: none"> • 男性、54歳、菌検出検体：血液、感染地 域：名古屋市
2019年 第34週	5類	梅毒	1	<ul style="list-style-type: none"> • 男性、70歳、早期顕症梅毒（2期）
2019年 第32週	5類	梅毒	1	<ul style="list-style-type: none"> • 男性、42歳、早期顕症梅毒（2期）

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

〔2019年1類～5類全数把握感染症の届出報告数の累計〕

感染症の分類	疾患	累計
1類感染症	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、他	0
2類感染症	急性灰白髄炎	0
2類感染症	結核（潜在性結核感染症を含む）	422（113） [2] [0] [1]
2類感染症	ジフテリア	0
2類感染症	重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る）	0
2類感染症	中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る）	0
2類感染症	鳥インフルエンザ（H5N1）	0
2類感染症	鳥インフルエンザ（H7N9）	0
3類感染症	コレラ	0
3類感染症	細菌性赤痢	3
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	35（7）
3類感染症	腸チフス	1
3類感染症	パラチフス	1
4類感染症	E型肝炎	1
4類感染症	A型肝炎	4
4類感染症	チクングニア熱	2
4類感染症	デング熱	6
4類感染症	マラリア	1
4類感染症	レジオネラ症	30
5類感染症	アメーバ赤痢	10
5類感染症	ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）	2
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	37 [1]
5類感染症	急性弛緩性麻痺	3
5類感染症	急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、 東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー 熱を除く）	13 [1]
5類感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	2
5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	25 [1]
5類感染症	後天性免疫不全症候群	52（41）<1>
5類感染症	ジアルジア症	1

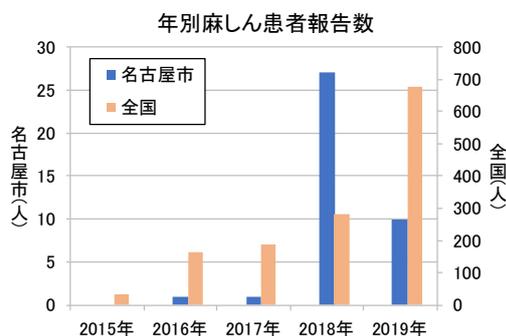
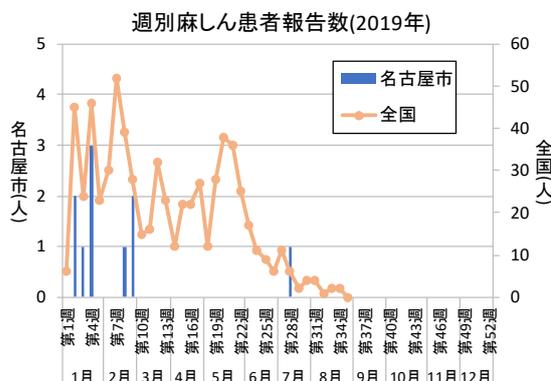
5 類感染症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	10
5 類感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	5
5 類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	56【1】
5 類感染症	水痘（入院例に限る）	3
5 類感染症	梅毒	142（51）
5 類感染症	播種性クリプトコックス症	3
5 類感染症	破傷風	1
5 類感染症	百日咳	168
5 類感染症	風しん	19
5 類感染症	麻疹	10

累計は 2019 年第 1 週からの診断週による累計、（ ）内は無症状病原体保有者累計数を再掲、[]内は疑似症累計数を再掲、【 】内は感染症死亡者の死体累計数を再掲、〔 〕内は感染症死亡疑い者の死体累計数を再掲、〈 〉内は後天性免疫不全症候群の「その他」累計数を再掲。

対象疾患が多いため、4 類及び 5 類感染症は報告のあった疾患のみを掲載。

（報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

〔名古屋市の麻しん報告数：2019年9月11日作成〕



週別麻しん患者報告数(2019年)

名古屋市	第2週 (1/7～ 1/13)	第3週 (1/14～ 1/20)	第4週 (1/21～ 1/27)	第8週 (2/18～ 2/24)	第9週 (2/25～ 3/3)	第28週 (7/8～ 7/14)			第36週(9月8日)まで の合計(人)
		2	1	3	1	2	1		

表は患者報告のあった週のみ掲載し、報告が0人の週については省略

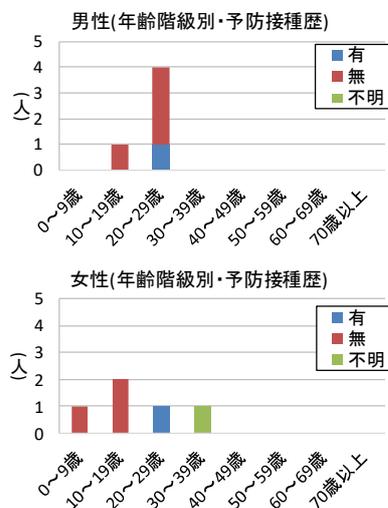
年別麻しん患者報告数

麻しん	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
名古屋市	75	11	6	19	5	1	20	0	1	1	27	10※1
愛知県	197	29	32	32	39	25	46	0	5	1	37	40※2
全国	11013	732	447	439	283	229	462	35	165	186	282	676※2

※1: 第36週(9月8日)まで ※2: 第35週(9月1日)まで

麻しん患者の性別・年齢階級別・予防接種歴(2019年名古屋市)

		予防接種歴			総計(人)
		有	無	不明	
男性	0～9歳				0
	10～19歳		1		1
	20～29歳	1	3		4
	30～39歳				0
	40～49歳				0
	50～59歳				0
	60～69歳				0
	70歳以上				0
	計(人)	1	4	0	5
女性	0～9歳		1		1
	10～19歳		2		2
	20～29歳	1			1
	30～39歳			1	1
	40～49歳				0
	50～59歳				0
	60～69歳				0
	70歳以上				0
	計(人)	1	3	1	5
	総計(人)	2	7	1	10

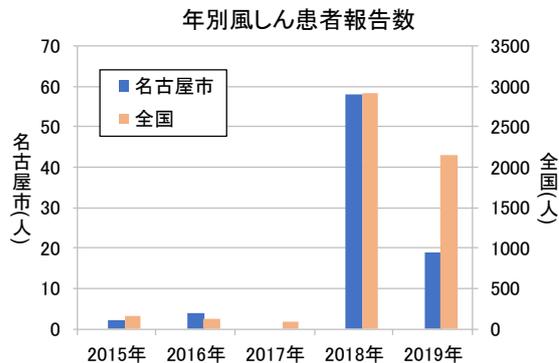


麻しん患者情報(2019年名古屋市)

No.	診断年月日	年齢	性別	予防接種歴	渡航歴	推定感染地域
1	2019.1.8	7歳	女	無	不明	不明
2	2019.1.10	20歳代	男	無	無	国内(三重県)
3	2019.1.19	20歳代	男	無	無	国内(愛知県)
4	2019.1.21	10歳代	女	無	有	フィリピン
5	2019.1.22	10歳代	女	無	有	フィリピン
6	2019.1.25	20歳代	男	有	無	国内(三重県、愛知県)
7	2019.2.20	10歳代	男	無	無	国内(愛知県)
8	2019.3.1	20歳代	男	無	無	国内(愛知県)
9	2019.3.2	30歳代	女	不明	無	国内(愛知県)
10	2019.7.11	20歳代	女	有	無	国内(不明)

(報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります)

[名古屋市の風しん報告数：2019年9月11日作成]



週別風しん患者報告数(2019年)

名古屋市	第1週 (12/31～ 1/6)	第4週 (1/21～ 1/27)	第6週 (2/4～ 2/10)	第7週 (2/11～ 2/17)	第8週 (2/18～ 2/24)	第9週 (2/25～ 3/3)	第11週 (3/11～ 3/17)	第12週 (3/18～ 3/24)	第36週(9月8日)まで の合計(人)
	1	1	2	2	1	2	1	1	
第19週 (5/6～ 5/12)	第20週 (5/13～ 5/19)	第21週 (5/20～ 5/26)	第23週 (6/3～ 6/9)	第30週 (7/22～ 7/28)					
2	1	3	1	1					

表は患者報告のあった週のみ掲載し、報告が0人の週については省略

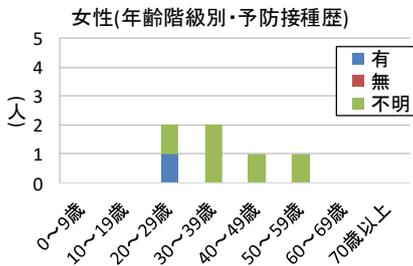
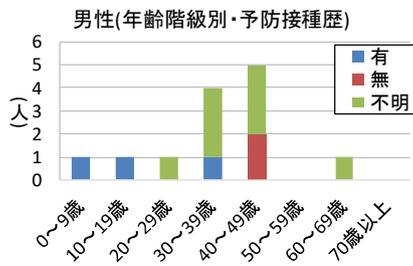
年別風しん患者報告数

風しん	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
名古屋市	1	1	0	7	38	191	7	2	4	0	58	19※1
愛知県	3	10	3	13	97	375	22	13	20	3	119	51※2
全国	303	147	87	378	2386	14344	319	163	126	91	2917	2156※2

※1: 第36週(9月8日)まで ※2: 第35週(9月1日)まで

風しん患者の性別・年齢階級別・予防接種歴(2019年名古屋市)

		予防接種歴			総計(人)
		有	無	不明	
男性	0～9歳	1			1
	10～19歳	1			1
	20～29歳			1	1
	30～39歳	1		3	4
	40～49歳		2	3	5
	50～59歳				0
	60～69歳			1	1
	70歳以上				0
	計(人)	3	2	8	13
女性	0～9歳				0
	10～19歳				0
	20～29歳	1		1	2
	30～39歳			2	2
	40～49歳			1	1
	50～59歳			1	1
	60～69歳				0
	70歳以上				0
	計(人)	1	0	5	6
	総計(人)	4	2	13	19



風しん患者情報(2019年名古屋市)

No	診断年月日	年齢	性別	予防接種歴	渡航歴	推定感染地域
1	2019.1.4	40歳代	男	不明	無	国内(静岡県)
2	2019.1.21	60歳代	男	不明	無	国内(愛知県)
3	2019.2.8	30歳代	男	不明	無	不明
4	2019.2.9	20歳代	女	不明	無	不明
5	2019.2.12	40歳代	男	不明	無	国内(愛知県、東京都)
6	2019.2.15	40歳代	男	不明	無	国内(愛知県)
7	2019.2.23	40歳代	女	不明	無	国内(愛知県、大阪府)
8	2019.3.1	30歳代	男	不明	無	不明
9	2019.3.2	30歳代	男	有	無	国内(大阪府)
10	2019.3.11	40歳代	男	無	無	国内(愛知県、岐阜県)
11	2019.3.18	40歳代	男	無	有	国内(愛知県、兵庫県、大阪府)、オーストラリア
12	2019.5.6	20歳代	女	有	無	国内(愛知県)
13	2019.5.10	30歳代	男	不明	無	国内(愛知県)
14	2019.5.17	30歳代	女	不明	無	国内(愛知県)
15	2019.5.20	20歳代	男	不明	無	国内(東京都、愛知県、大阪府)
16	2019.5.23	1歳	男	有	無	国内(愛知県)
17	2019.5.25	10歳代	男	有	無	不明
18	2019.6.4	50歳代	女	不明	無	国内(愛知県)
19	2019.7.26	30歳代	女	不明	無	国内(愛知県)

(報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります)

〔愛知県麻しん・風しん患者調査事業について〕

平成20年1月1日から、麻しん・風しんは全数把握対象疾患となりましたが、愛知県内では、感染症法に基づく届出では把握できない情報を得るため、医師会と協力して「愛知県麻しん・風しん患者調査事業」を実施しており、名古屋市も参加しています。調査結果については下記のリンク先(愛知県衛生研究所ホームページの中のコンテンツ <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl.html>)をご覧ください。

〔定点医療機関からの情報〕

定点医療機関からは検査結果や患者発生状況等がコメント情報として報告されています。定点医療機関から報告されたコメント情報は下記のとおりです。なお、コメント情報のなかった定点医療機関については掲載しておりません。

インフルエンザ：A型1名	定点医療機関(千種区)
インフルエンザすべてA型。	定点医療機関(西区)
インフルエンザA型女性1名	定点医療機関(南区)
インフルエンザA型	定点医療機関(守山区)

◆2019年第36週 患者報告数(疾病区別)、定点あたり患者報告数(疾病区別)、年齢階層別患者報告数(疾病別)

患者報告数(名古屋市)

2019年第36週(2019年9月2日~9月8日)

疾患 \ 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計	前週比	過去比*	
★インフルエンザ	1			2				1				1	1			2	8	2.0	2.4	
○RSウイルス感染症	17	2	5	24	3		2			5		20	4	1	8		91	1.5	1.3	
○咽頭結膜熱		2	2	1							1	1					1	8	0.7	0.7
○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	2	4	8	1	2	1		1	1	1	2	8	2		6	43	1.5	1.4	
○感染性胃腸炎	7	1	15	20	12	5	5			8	19	5	9		6	15	127	0.9	0.9	
○水痘				2									1				3	0.6	0.3	
○手足口病	5	1	2	26	6	1				1		1	5	1	2	12	63	1.3	1.3	
○伝染性紅斑	4	3	5	13					1	2	2	5	6	3	3	6	53	1.4	17.7	
○突発性発疹	3		1	1					1				6	2		2	16	2.0	0.8	
○ヘルパンギーナ	3	2		10						12		2		1	2	2	34	0.9	1.0	
○流行性耳下腺炎	1			1	1												3	0.6	0.3	
△急性出血性結膜炎																	0			
△流行性角結膜炎	2																2	0.5	0.4	
◇細菌性髄膜炎																	0			
◇無菌性髄膜炎																	0		0.0	
◇マイコプラズマ肺炎							1										1	0.5	0.6	
◇クラミジア肺炎																	0			
◇感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)																	0			
計	47	13	34	108	23	8	9	1	3	29	23	37	40	10	21	46	452			

*過去3年の同週の平均値との比

★インフルエンザ定点数	5	4	5	4	5	4	5	5	4	4	4	4	5	4	4	4	70		
○小児科定点数	5	4	5	4	5	4	5	5	4	4	4	4	5	4	4	4	70		
△眼科定点数	1		1	1	1		1	1	1			1		1	1	1	11		
◇基幹定点数			1				1			1							3		

★○△◇は定点種別を示す。

セルは、該当疾病の定点医療機関のない区を示す。

定点あたり患者報告数、および流行警報・注意報発生状況(名古屋市)

2019年第36週(2019年9月2日~9月8日)

疾患 \ 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	平均
インフルエンザ	0.2			0.5				0.2					0.3	0.2		0.5	0.1
RSウイルス感染症	3.4	0.5	1.0	6.0	0.6		0.4			1.3			5.0	0.8	0.3	2.0	1.3
咽頭結膜熱		0.5	0.4	0.3							0.3	0.3				0.3	0.1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.8	0.5	0.8	2.0	0.2	0.5	0.2		0.3	0.3	0.3	0.5	1.6	0.5		1.5	0.6
感染性胃腸炎	1.4	0.3	3.0	5.0	2.4	1.3	1.0			2.0	4.8	1.3	1.8		1.5	3.8	1.8
水痘				0.5										0.2			0.0
手足口病	1.0	0.3	0.4	6.5	1.2	0.3				0.3		0.3	1.0	0.3	0.5	3.0	0.9
伝染性紅斑	0.8	0.8	1.0	3.3					0.3	0.5	0.5	1.3	1.2	0.8	0.8	1.5	0.8
突発性発疹	0.6		0.2	0.3					0.3				1.2	0.5		0.5	0.2
ヘルパンギーナ	0.6	0.5		2.5						3.0		0.5		0.3	0.5	0.5	0.5
流行性耳下腺炎	0.2			0.3	0.2												0.0
急性出血性結膜炎																	
流行性角結膜炎	2.0																0.2

警報対象疾患	流行発生警報		流行発生注意報
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

流行警報・注意報について

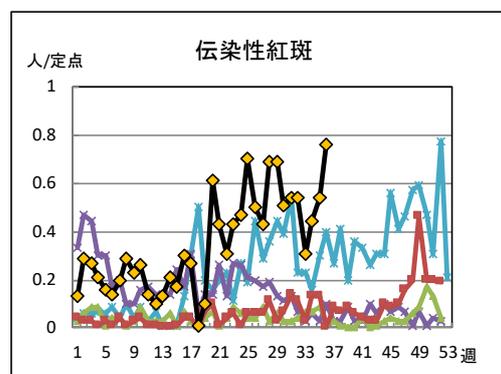
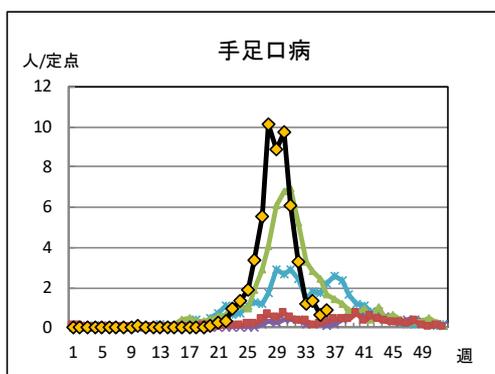
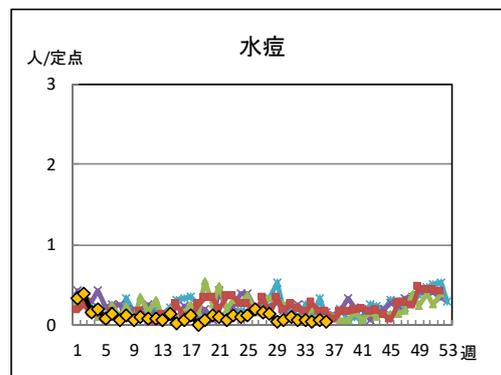
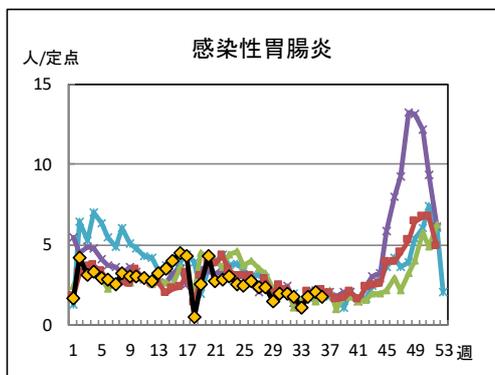
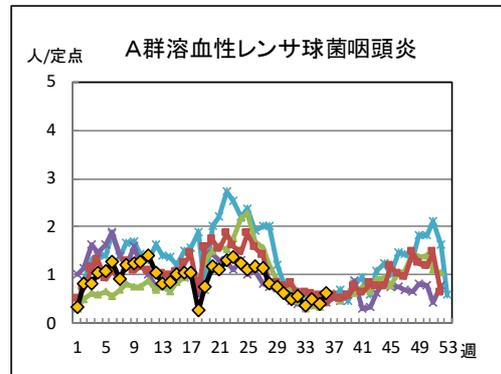
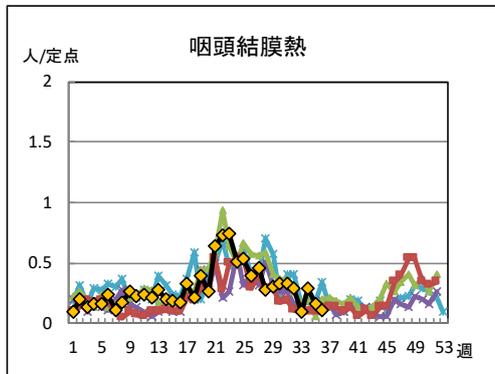
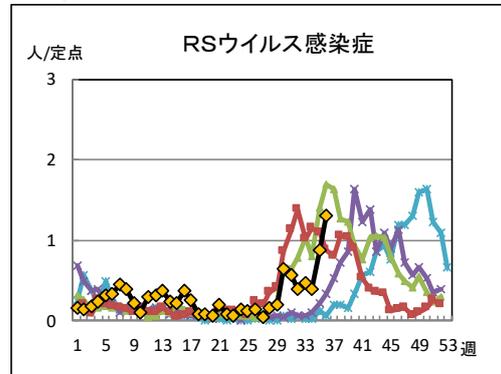
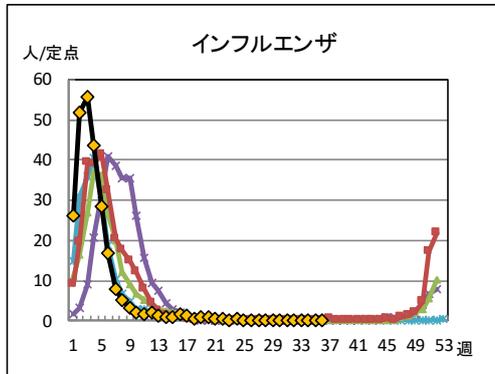
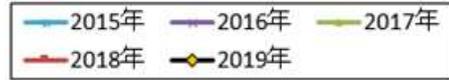
■ **太字の数字** は流行発生警報

■ **斜体の数字** は流行発生注意報

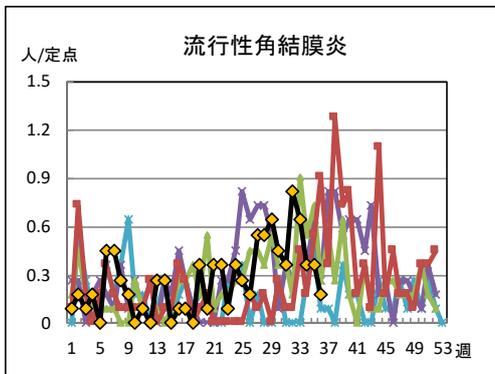
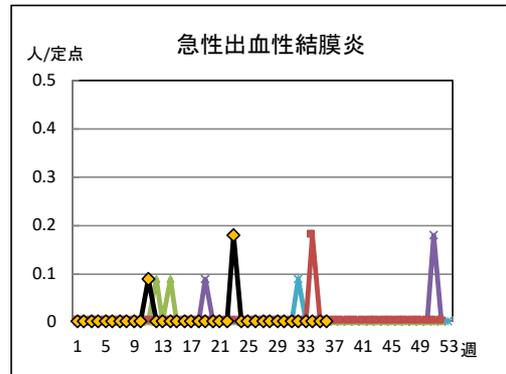
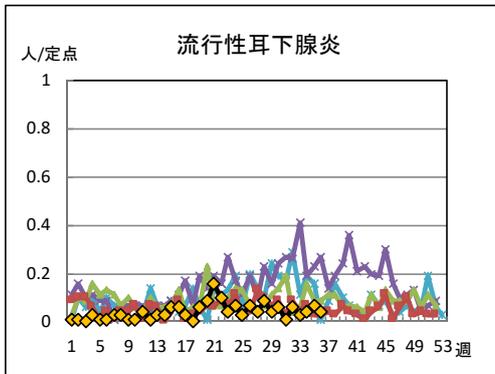
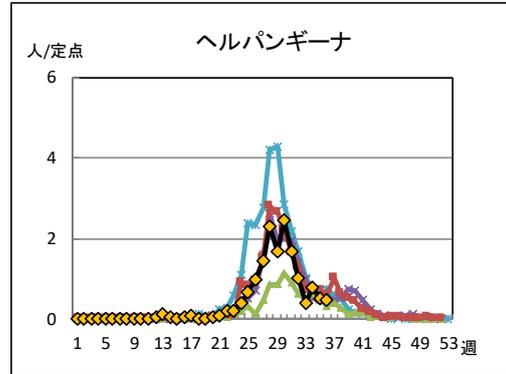
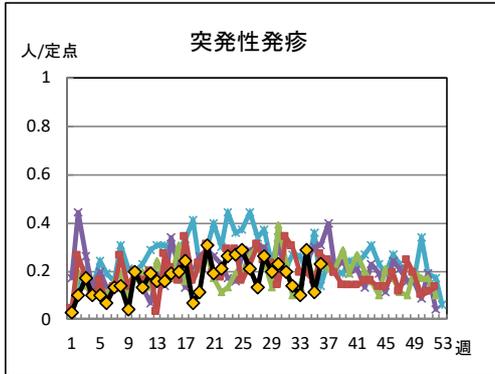
■ 警報及び注意報の発生は、厚生労働省の感染症発生動向調査における警報発生システムの基準値(左表)に準拠しています。なお基準値は、変更される場合や当センターの判断で、独自の設定に変更する場合があります。

■ この警報及び注意報は、感染症発生動向調査に関わる専門家の対案立案を支援するためのものです。詳しい目的、利用法等については当情報センターにご連絡ください。

◆小児科・インフルエンザ・眼科定点医療機関からの
 定点あたり患者報告数の推移グラフ(1) 2019年第36週まで



◆小児科・インフルエンザ・眼科定点医療機関からの
 定点あたり患者報告数の推移グラフ(2) 2019年第36週まで



◆ 基幹病院定点月報の集計結果〔2019年8月分〕

基幹定点数：3（西部医療センター(北)、名古屋第二赤十字病院(昭和)、名古屋掖済会病院(中川)）

表1.基幹定点報告、区別患者報告数(名古屋市)

2019年8月

疾患 / 区	北	昭和	中川	計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1			1
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		1		1
薬剤耐性緑膿菌感染症				0
計	1	1	0	2

表2.基幹定点報告、年齢階級別報告数(名古屋市)

2019年8月

疾患 / 年齢階級	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90歳-	計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症									1		1
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1										1
薬剤耐性緑膿菌感染症											0
計	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2

◆ 性感染症について〔性感染症定点把握、2019年8月分〕

性感染症定点数：15（泌尿器科系：8、産婦人科系：7）

報告された患者数を性別で見ると、男性では性器クラミジア感染症、淋菌感染症、尖圭コンジローマ、性器ヘルペスウイルス感染症の順に多く、女性では性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、淋菌感染症、尖圭コンジローマの順に多く報告がありました。今月の性感染症の報告数は男性150人、女性は30人でした。（表2、図1参照）

2019年8月分を年齢階級別に見ると、男性の性器クラミジア感染症は15歳以上の全ての年齢階級で報告があり、性器ヘルペスウイルス感染症は0歳から14歳、25歳から39歳、45歳から49歳および55歳以上の年齢階級で報告がありました。尖圭コンジローマは20歳から29歳および35歳以上の年齢階級で報告があり、淋菌感染症は20歳以上の全ての年齢階級で報告がありました。女性では性器クラミジア感染症は15歳から34歳の年齢階級で報告があり、性器ヘルペスウイルス感染症は15歳から39歳および55歳以上の年齢階級で報告がありました。尖圭コンジローマは25歳から29歳の年齢階級で報告があり、淋菌感染症は20歳から24歳および40歳から44歳の年齢階級で報告がありました（表2、図2参照）。

表1.性感染症区別患者報告数(名古屋市)

2019年8月

疾患 / 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	太白	計
性器クラミジア感染症	5		24	1	5	26	5		16	6				2	3	1	94
性器ヘルペスウイルス感染症			3	4	2	7		2		2				1		3	24
尖圭コンジローマ			2		1	4	1			12	1						23
淋菌感染症	2		10			11	3			10				3			39
計	7		39	5	8	48	9	2		38	9			6	3	6	180

STD定点数	1		2	1	1	2	1	1		1	1	1		1	1	1	15
--------	---	--	---	---	---	---	---	---	--	---	---	---	--	---	---	---	----

のセルは、該当疾病の定点医療機関のない区を示す。

表2.性感染症年齢階級別患者報告数(名古屋市)

2019年8月

疾患 / 年齢階級	性別	0-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55歳-	計
性器クラミジア感染症	男性		3	22	23	7	10	9	2	3	2	81
	女性		1	10	1	1						13
性器ヘルペスウイルス感染症	男性	1			2	1	1		2		5	12
	女性		1	3	4	2	1				1	12
尖圭コンジローマ	男性			4	6		6	2	1	1	1	21
	女性				2							2
淋菌感染症	男性			8	8	2	5	3	2	5	3	36
	女性			2				1				3
計	男性	1	3	34	39	10	22	14	7	9	11	150
	女性		2	15	7	3	1	1			1	30

図1. STD各感染症が総報告数に占める割合(2019年8月)

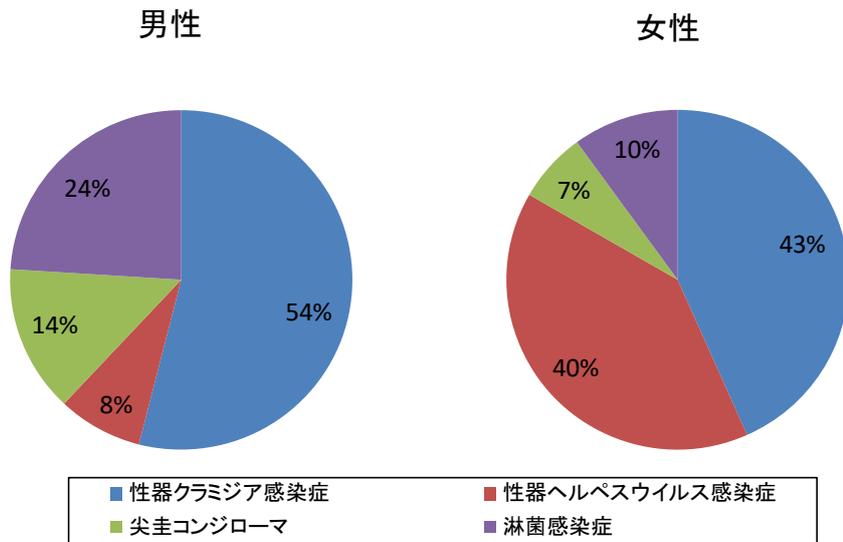


図2. 各STDの性別・年齢階級別の定点あたり報告数(2019年8月)

